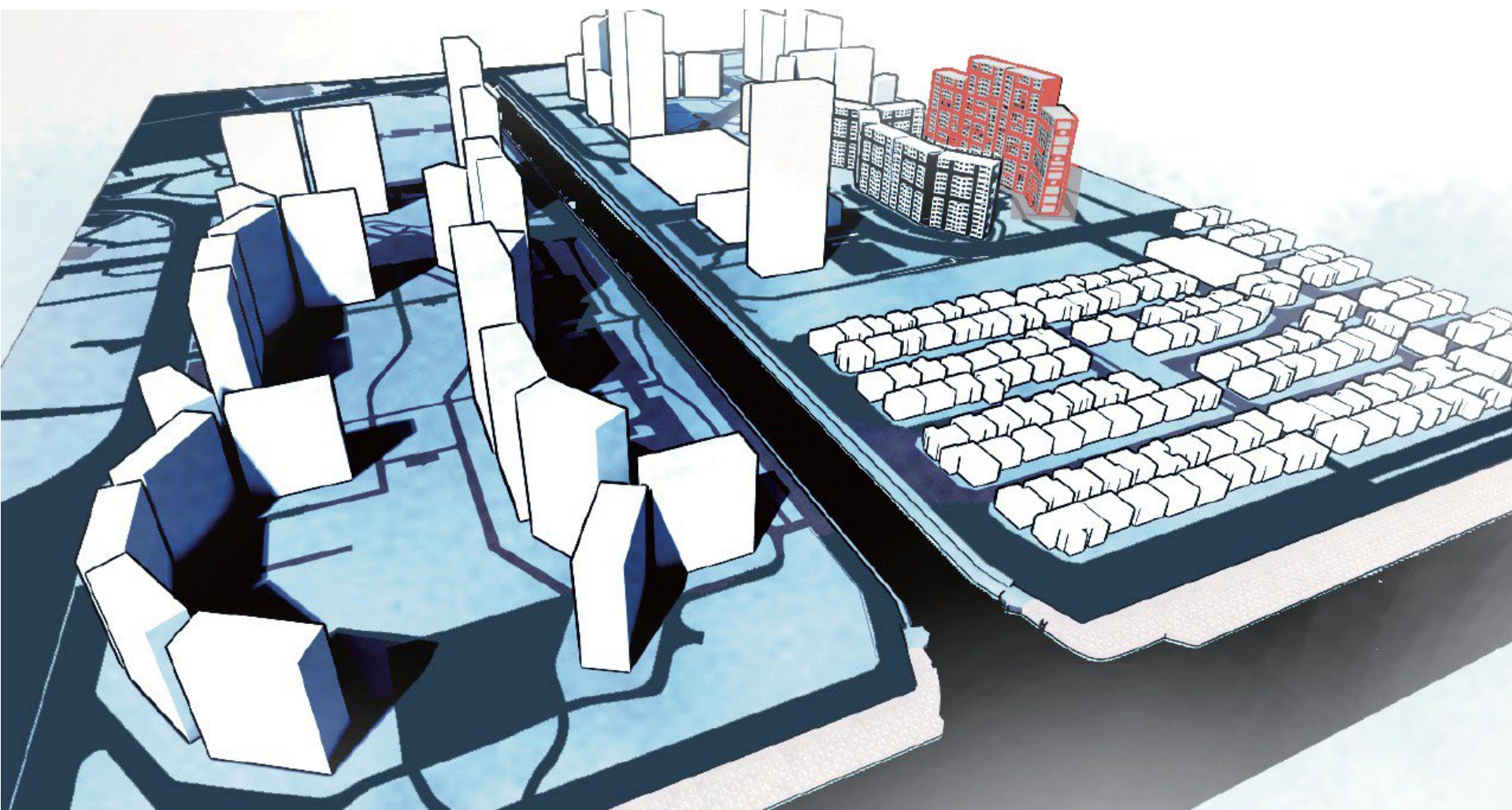
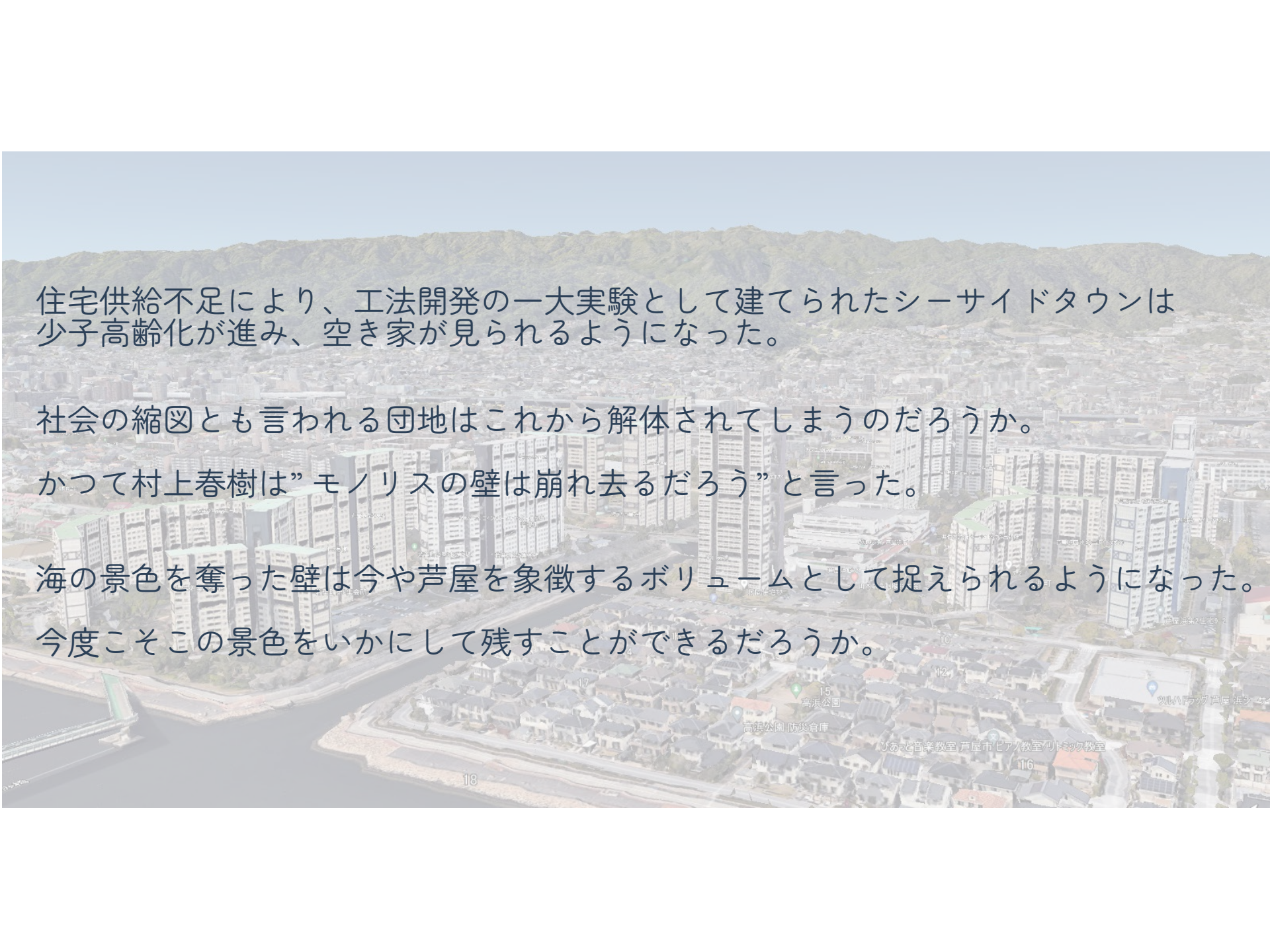


モノリスの壁が崩れる前に

—芦屋浜シーサイドタウンの持続を目指して—

大阪公立大学院 伊藤佑那



An aerial photograph of a coastal city, likely Yokohama, Japan. In the background, a large, green, forested hill rises above the city. The city itself is densely packed with buildings, including many tall apartment complexes. In the foreground, a river or bay is visible, with a bridge crossing it. The overall scene is a mix of urban development and natural landscape.

住宅供給不足により、工法開発の一大実験として建てられたシーサイドタウンは
少子高齢化が進み、空き家が見られるようになった。

社会の縮図とも言われる団地はこれから解体されてしまうのだろうか。

かつて村上春樹は”モノリスの壁は崩れ去るだろう”と言った。

海の景色を奪った壁は今や芦屋を象徴するボリュームとして捉えられるようになった。

今度こそこの景色をいかにして残すことができるだろうか。

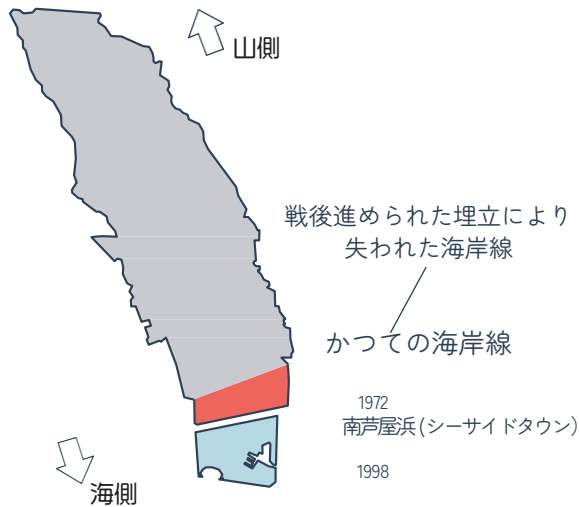
芦屋市とシーサイドタウン

敷地概要

1972年に策定された「芦屋浜埋立地構想・計画」に基づき建造された全52棟、3,381戸の兵庫県芦屋市の集合住宅群。



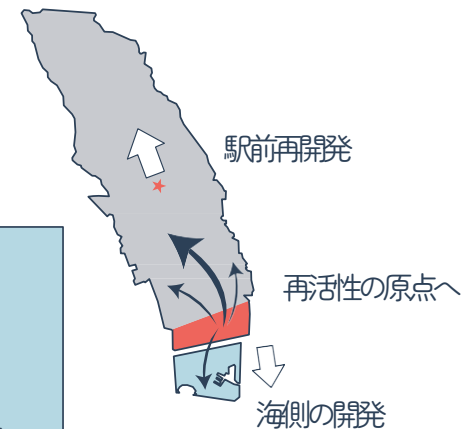
芦屋市全域図



芦屋市の現状

- ・ 少子高齢化
- ・ 進みの悪い駅前の再開発（山側に向けて）
- ・ 複雑な道路と狭い道路幅員による交通渋滞
- ・ 津波発生時の浸水被害想定がされている
- ・ 人口減少

幅広い世代に向けられた
新たな地域の活性化拠点が必要。
駅周辺に集中する人流や生活を、
芦屋全域に拡大してくれるような
ポンプのような役割の場所を設けたい



設計設計対象地

施工
構造形式
敷地面積
建築面積
延床面積
階数
竣工

ASTM 共同企業体
鉄骨造
202,851 m²
19,461 m²
308,701 m²
14 ~ 29 階
1979 年 7 月



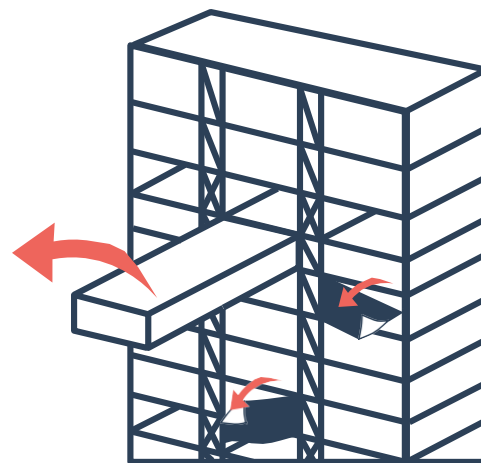
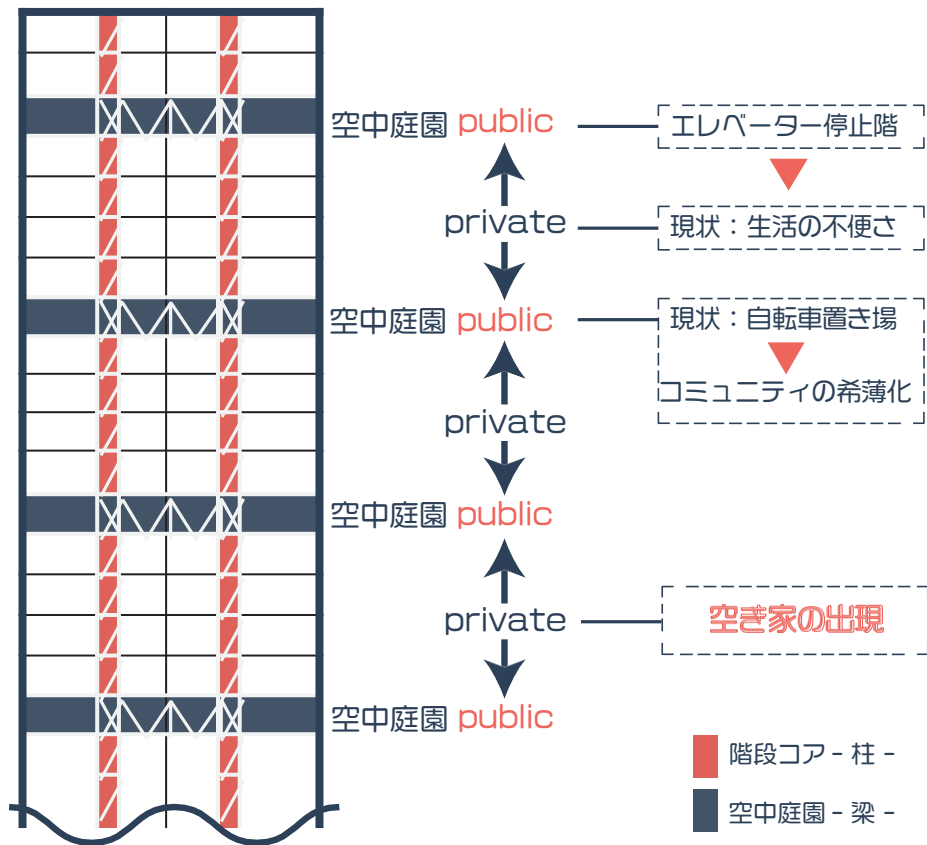
宮川を挟んで東側の地区は、人の往来はあるが、集会所や掲示板はあまり使われていない様子

林の広場 東側の 4 棟(公団) を
設計対象とする

住戸棟について

桁方向一階段コアを柱とし、5層ごとにある共用階を梁とする大きなラーメン状の架構。

張間方向一階段架構4面をラーメン+ブレース架構としてトラスをもつ架構形式。



解体イメージ

外壁を取り外すことが容易である。
メガストラクチャーは残したまま、
空き家になった住戸から解体、改築を
行うことで、シーサイドタウンの
ボリュームを保存する。

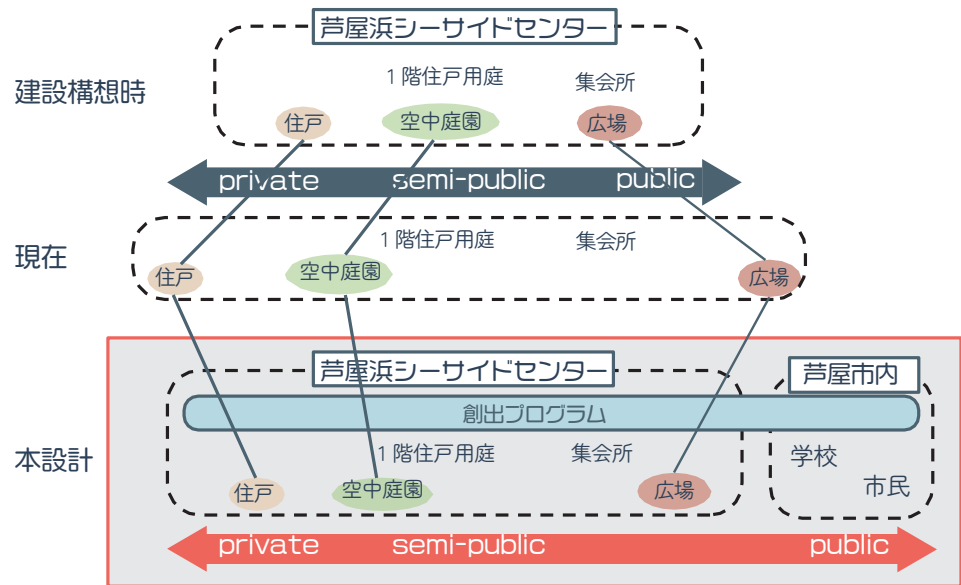
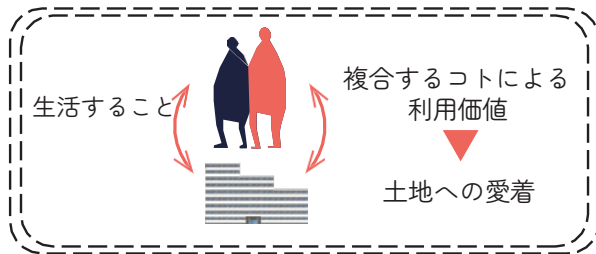
目指す団地像

昔は多くのモノを所有することが豊かなことであるとされていたが、今はモノが溢れることはむしろ生活の質を低下させるという認識が持たれている。構想時にはもっと近しかった公私空間の関係性を再構築することで、団地内で正起することに価値を作り出す。

1970年代 - モノの時代 -



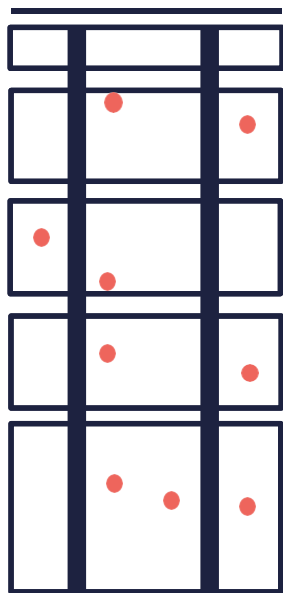
現代 - コトの時代 -



居住者が団地を基盤として、地域や人と結びつき「生きがい」や「なりわい」を持てる団地

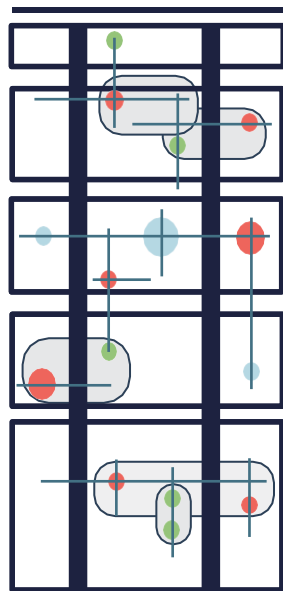
コンセプトダイアグラム

現在

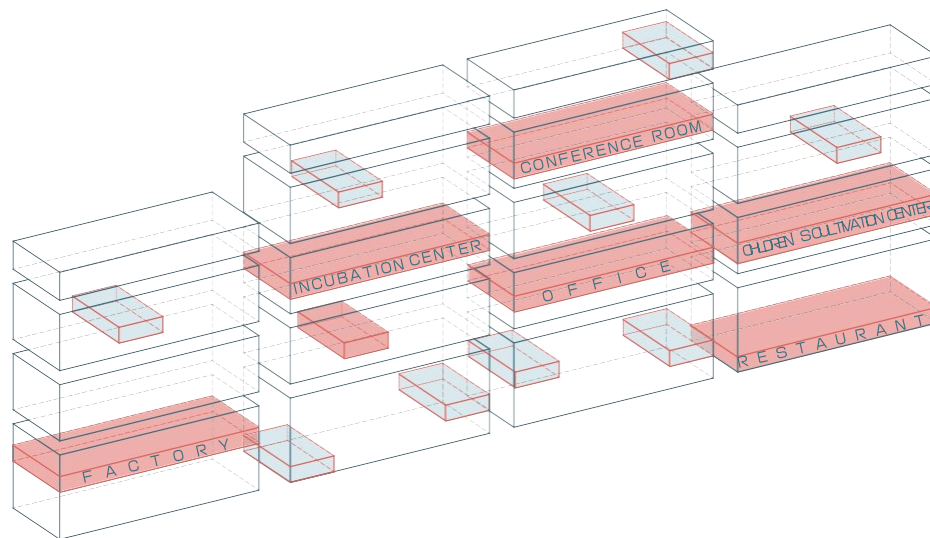


空き家
↓
大量のハコのうちの一つ

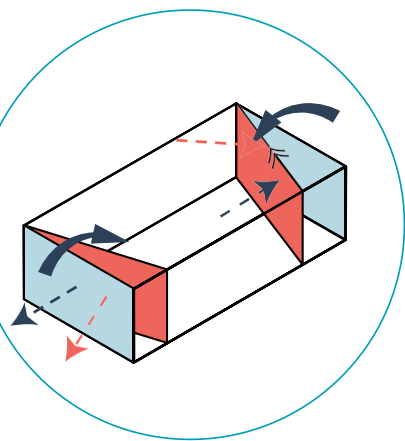
提案



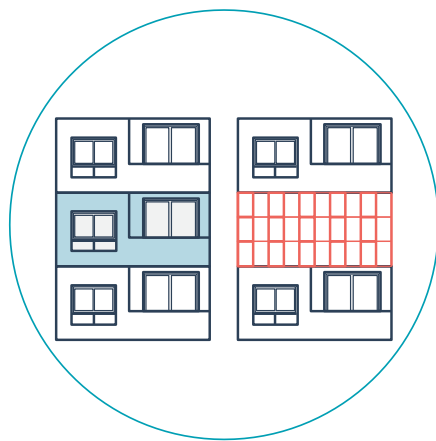
空き家
↓
ハコの個性を明るみにする空間



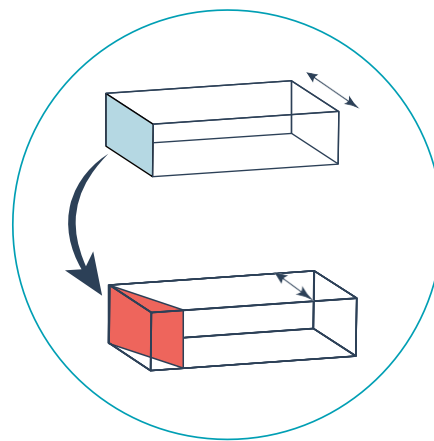
ハコとしての空き家から個性を抽出しつつ、
公の空間として繋げていくことで団地全体を
多様な空間の連続体に変化させていく。



1-1. 新たな壁を挿入



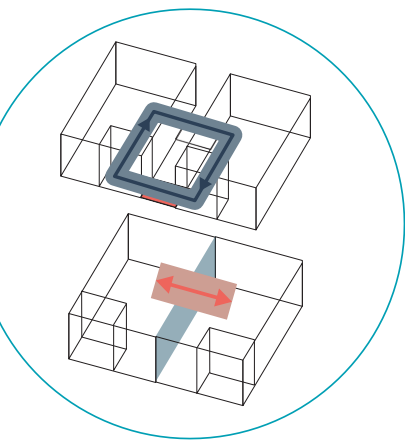
異素材の壁に変更



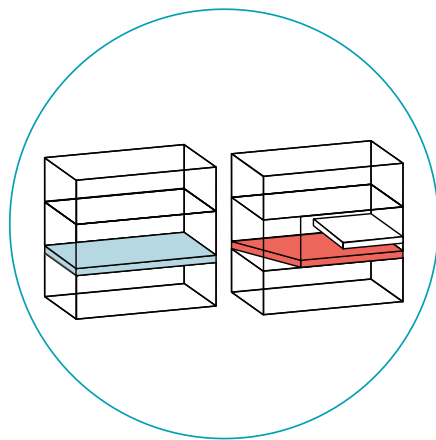
1-2. 既存壁の移築



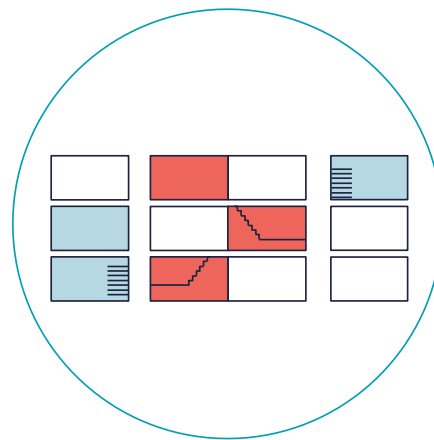
2-1. メガストラクチャーの補強



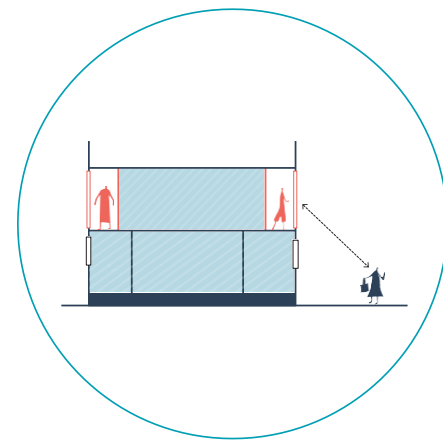
2-2. ロの字プラン・
一の字型プラン



3-1. スラブの切り取り・挿入



3-2. 階段の挿入



3-3. 壁のセットバック

プログラムによる団地内外の相関図

水耕・LED 栽培



室内栽培システム、養殖システムを利用した栽培場
コト（雇用）、モノ（植物・水産物）の創出

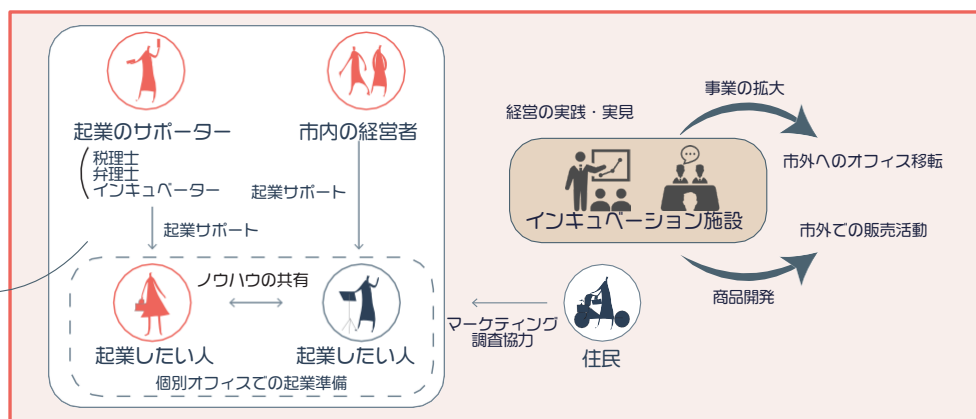
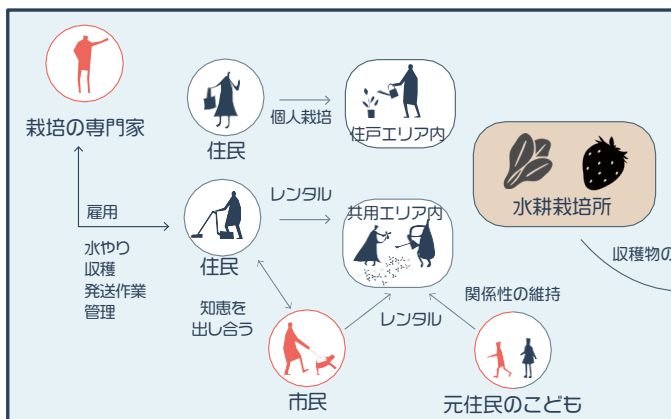
- ・高層の建物は水の無駄が少なく活用しやすい
- ・育てて収穫するという人間の根源的な喜びの活動
- ・雇用を生み出しやすい

インキュベーションプログラム

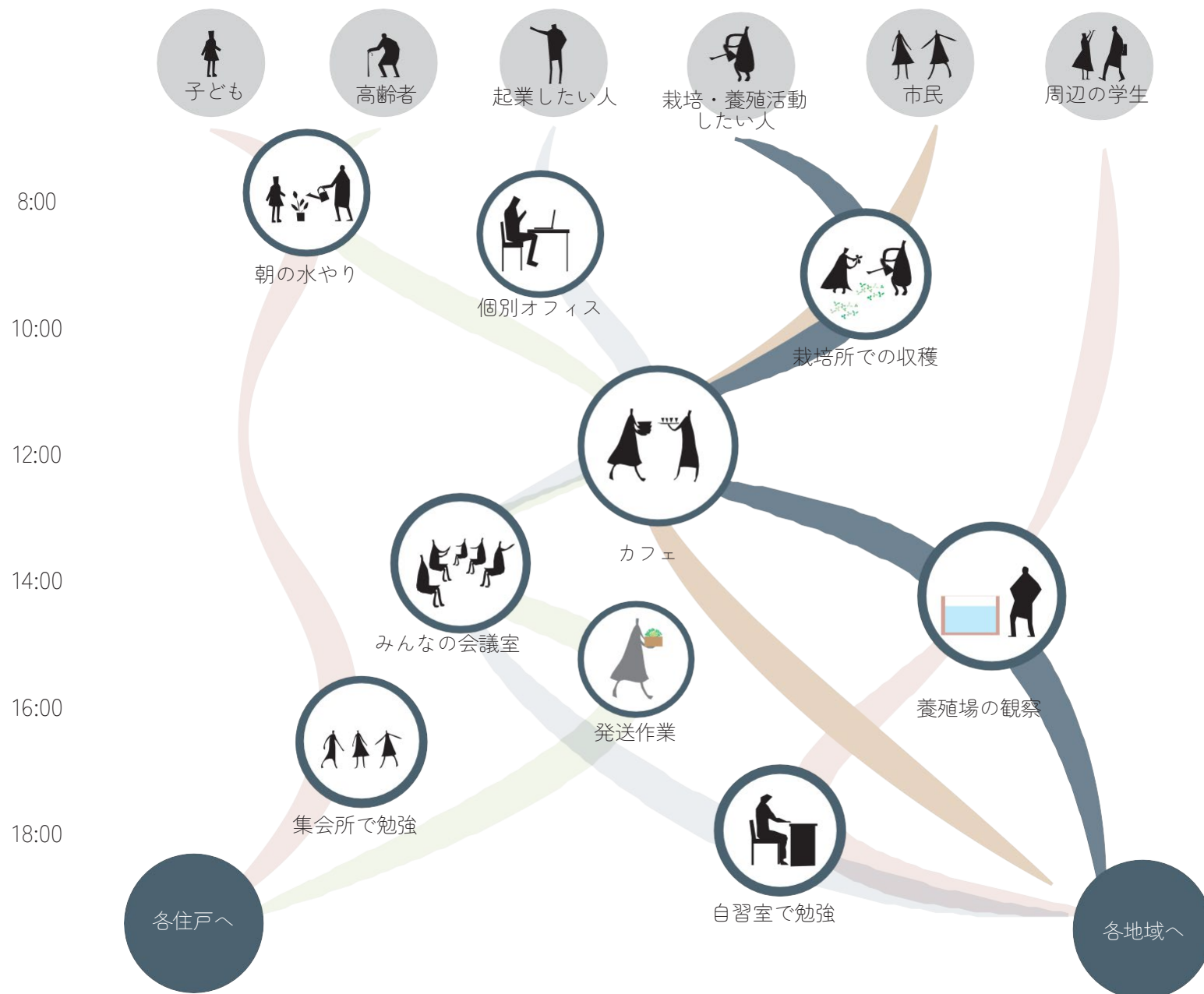


起業者を支援する機能を備えたレンタルオフィス
ヒト（起業者）、モノ（商品）、コト（サービス）の創出

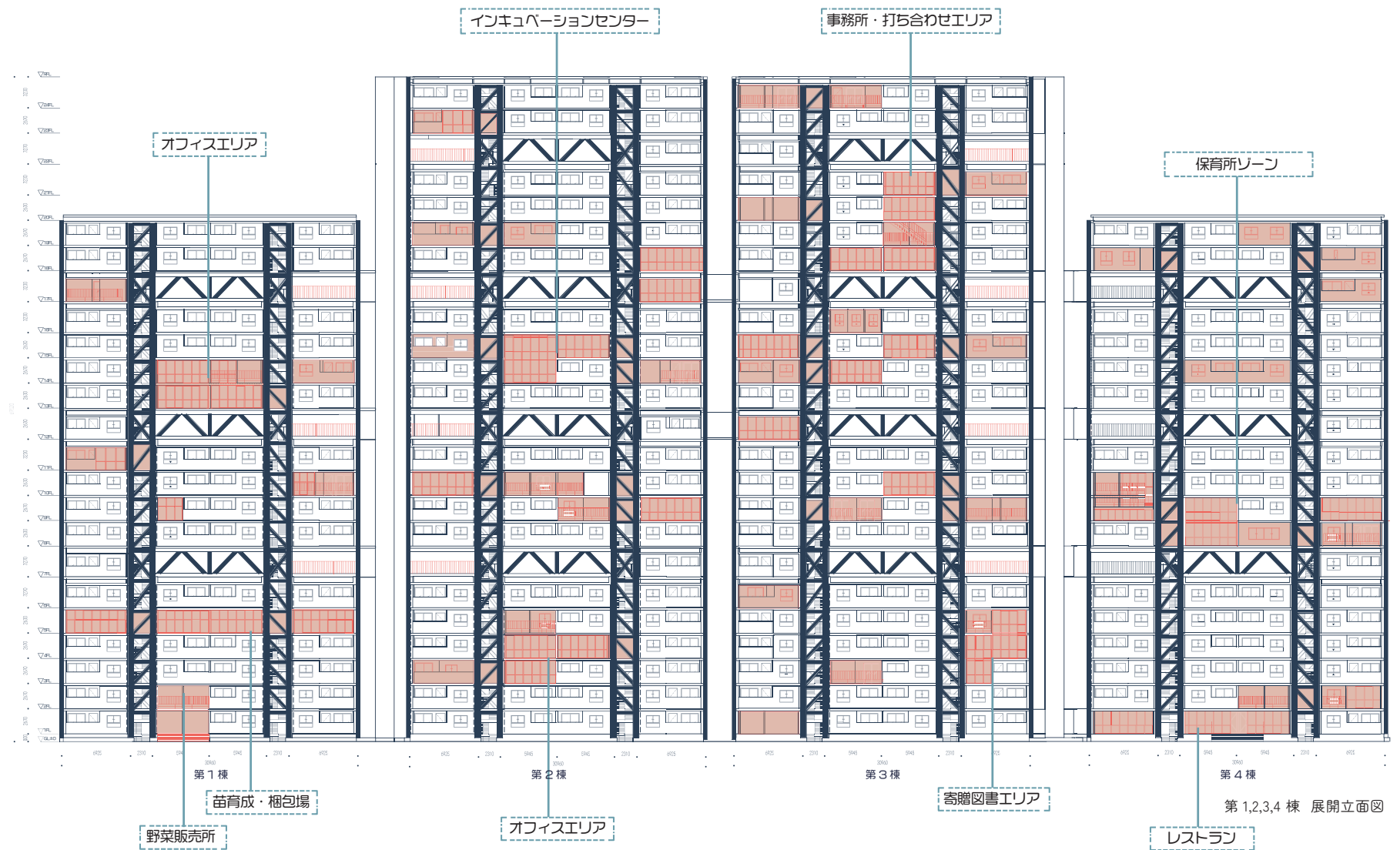
- ・既存の住戸を活用しやすい
- ・人と人が直接関わりあうことが必要
- ・この地区を起点として広い地域にアプローチをかけるきっかけになる



時間ごとの人々の関わり

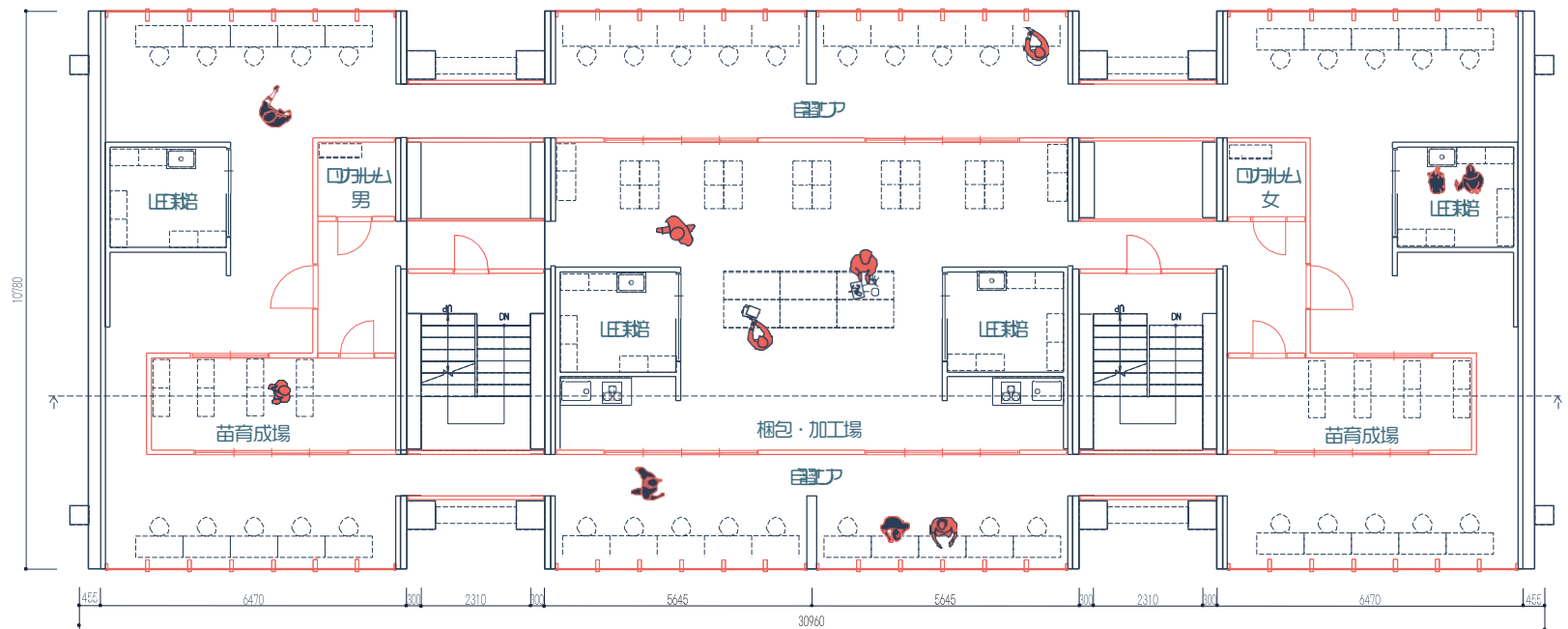


展開立面図

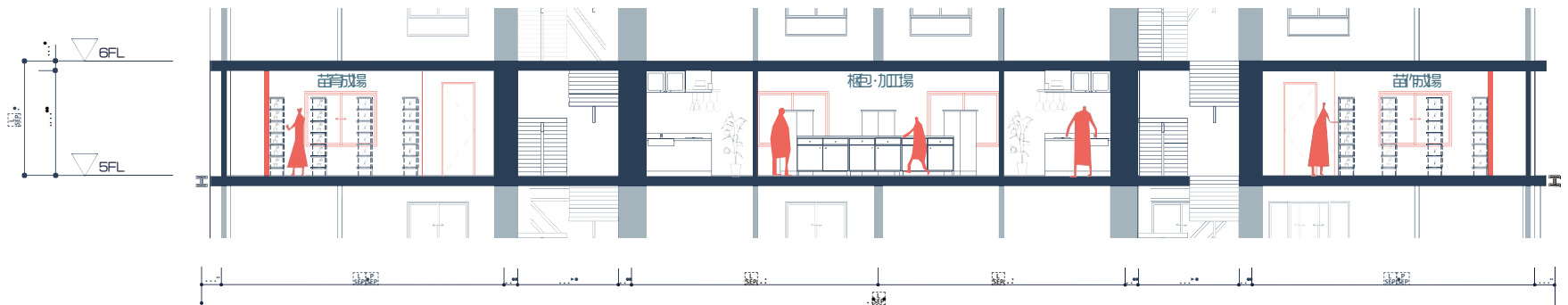


A. 苗育成・梱包場

地域住民の協力によって生まれる団地内の新たな拠点



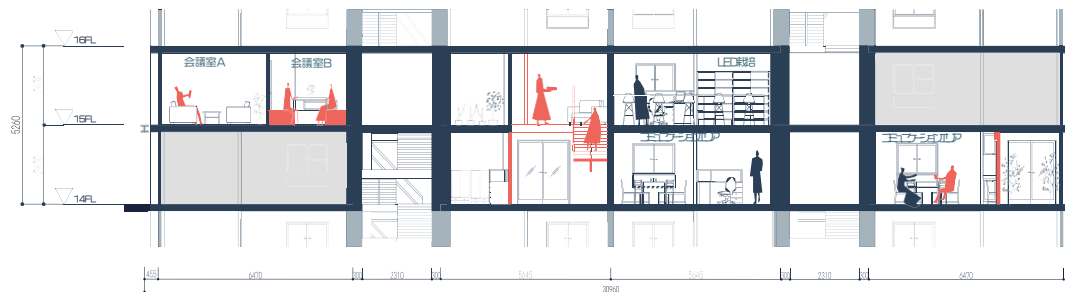
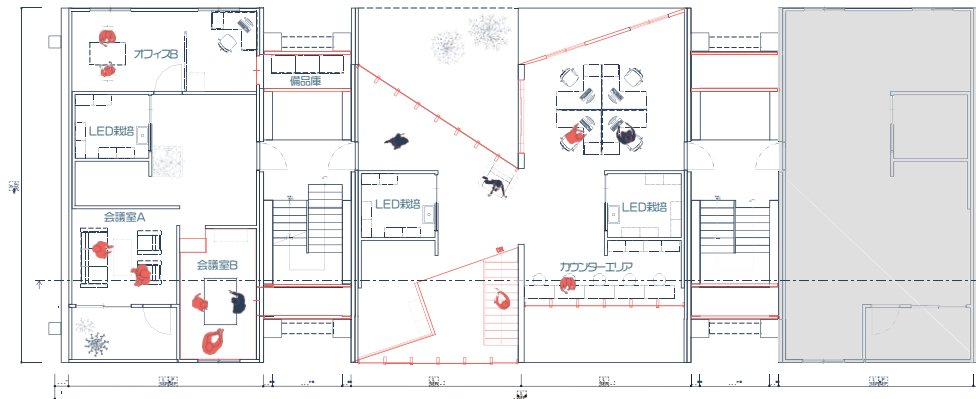
苗育成・梱包場（第1棟 5F）平面図 S=1:100



A-A' 断面図 S=1:100

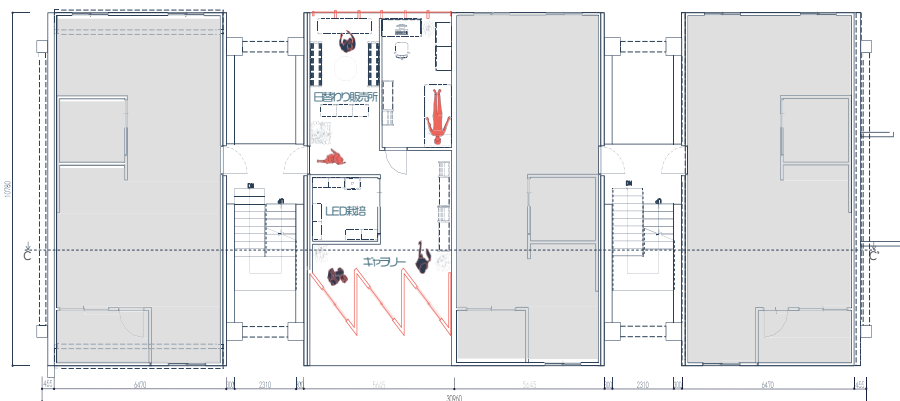
B. インキュベーションセンター

点在するレンタルオフィスの中心となるコミュニティゾーン

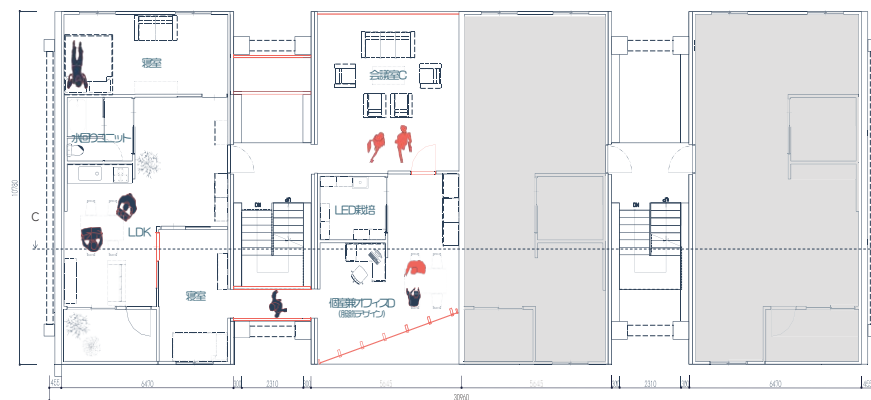


C. オフィス・ギャラリー

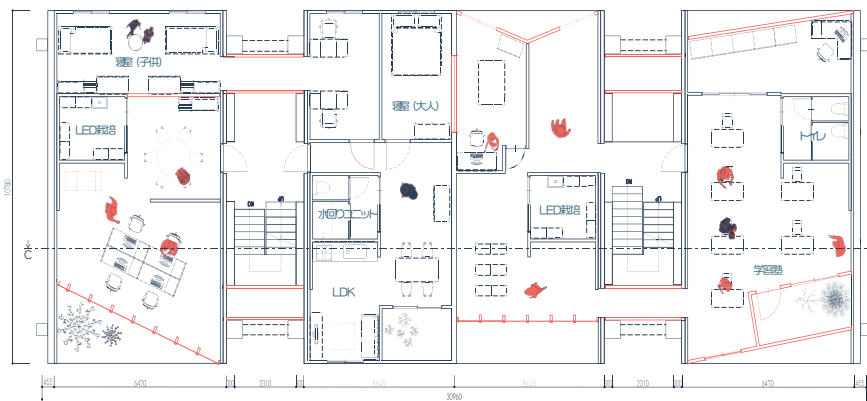
点々と生まれたオフィスが繋がり集合していくエリア



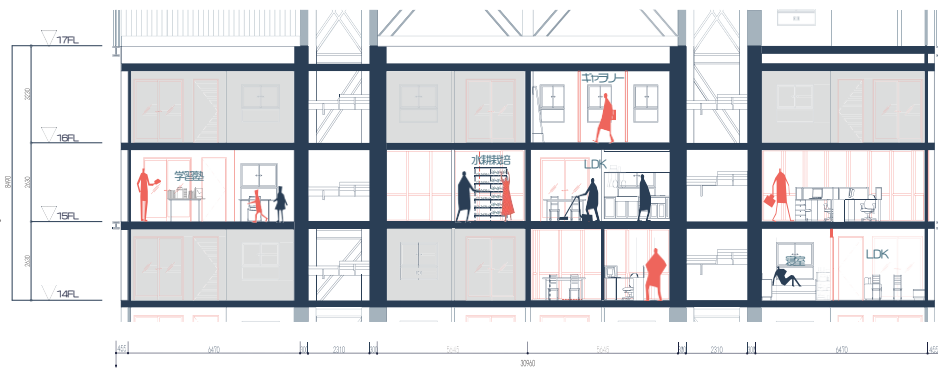
オフィス・ギャラリー (第3棟 16F) 平面図



オフィス・会議室 (第3棟 14F) 平面図



オフィス・学習室 (第3棟 15F) 平面図



C-C' 断面図

